

## 《河川/海洋ごみの発生源調査を実施しました》

### ～（調査名）「ホームレスによる河川へのごみ投棄 0 プロジェクト」～

ACFは26年にわたり荒川の清掃活動に携わってきましたが、近年では河川/海洋ごみ問題の根本的な解決を目指して、ごみの発生源に関する調査を行っています。その一環として、2020年度は荒川下流域の河川敷で生活するホームレス（以下「河川敷生活者」）によるごみ投棄の実態調査を実施しました。



#### 1. 現地踏査を通して見た河川敷生活者によるごみ投棄の実態（調査範囲：荒川下流域の両岸）

- 河川敷生活者の住居と住居周囲を調査しました。
- また、河川敷生活者へのヒアリング(写真1)を実施しました。

写真1 ヒアリング風景



#### 2. 荒川下流域に堆積/散乱している、河川敷生活者に起因するごみ量の推計

- 一定面積あたりのごみ重量の調査(写真2)と衛星写真の画像解析(写真3)により、荒川下流の河川敷に存在している、河川敷生活者に起因するごみの量を推計しました。
- 河川敷に堆積/散乱しているごみは、早期に回収されなければ大雨や暴風等によって荒川へ流され、海洋へ流出します。

写真2 ごみ重量の調査



#### 3. 本調査から見てきた対策と課題

- 荒川クリーンエイドで回収できるごみの量は年間20～50t(推算値)です。
- 今回の調査ではボランティアに回収されるよりも多くのごみが、河川敷生活者によって投棄されている実態が明らかとなりました。
- この問題の解決のためには、行政/自治体/福祉NPO等との連携が不可欠です。

写真3 衛星画像の解析



#### [★本事業へのご支援]

- 本事業は、日本財団による助成を受けて実施されました（2020年度助成）。
- 2021年度も継続調査を行います。なお、本事業は河川敷生活者の人権や安全に関わるため、調査結果の公開範囲を限定しています。